



2014.3.1.

3月 ちとせだより

神戸YMCAちとせ幼稚園

今年度、最後の月を迎えています。この一年は子どもたちにとって、どのような一年だったでしょうか。「可愛い子には、旅をさせよ」という諺がありますが、子どもたちにとっては、この幼稚園での経験がまさしく旅という経験ではないでしょうか。今まで家庭で親に守られて育ってきた子どもが、親元を離れて自身自身の力で過ごす場面が幼稚園です。そこでは、様々なことを指示したり、判断したりする親はいませんし、家族とは異なる様々な人間関係を体験します。そしてそこには自分のことを理解してくれる仲間ばかりがいるわけではありませんし、自分とは興味も意見も異なる仲間には、自分を主張しているだけでは受け入れてはもらえません。しかしまた、他者の意見を聞いているだけでは、自分の考えを主張することは出来ません。さらに幼稚園という社会の中では気の合う仲間ばかりがいるわけでもありませんし、中には意地悪をする子どももいるでしょう。しかし、反対に優しく手を差し伸べてくれる子どももいますし、いっしょに遊んで楽しい仲間もいるのです。そして、そんな様々な人間と接する経験を通してこそ、他者との付き合い方も身についていくのです。

子どもたちにとっては、自分で考えて判断し、行動しなければならない経験をするのが幼稚園なのです。だからと言って、子どもたちはそのことを苦痛と感じているかという決してそうではありません。子どもたちはよく、「自分でする」「自分で出来る」という言葉を口にするように、親や大人にしてもらうのではなく、本来は自分でしてみたいという意欲を持っているのです。そして、自分で試してみても出来たという喜びが何にもましてうれしく自信にも繋がります。また、自分で決めて行動に移したことの結果が期待通りではなく、たとえ失敗という結果になったとしてもそれを誰かの責任にはしないでしょ。しかし、本来持っている「自分でしたい」という意欲も、そのことを認めてもらえない家庭で育つのであれば、だんだん失われていくことも当然ですし、上手くいかない時にはその責任を親にぶつけてくるかも知れません。また、子どもの気持ちではなく、親自身の自己満足とも言うべき気持ちが先行して、子どもの将来をも左右してしまう判断を親がしてしまう場合があるかも知れません。そして、そんな家庭で育った子どもは、自分で判断する経験もなく、また自分で判断してはいけないという思い込みの中で育っていくかも知れません。

幼稚園もまた親自身も子どもに対してなすべきことは、心配しながらも子どもの力を信じて見守ることであることを忘れないで今年度の最後の時を過ごしたいと思います。